

令和7年度病害虫発生予報第9号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	やや少 並 やや少 やや少 やや少	やや少 並 やや少 やや少 やや少
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	並 並 並	並 並 並
いちご (本園)	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類（防除情報第5号） アザミウマ類	並 やや少 並 やや多 やや少	並 やや少 やや多 やや多 並
ブロッコリー	黒腐病 コナガ	やや少 少	やや少 やや少
レタス	灰色かび病 菌核病	並 やや少	並 やや少
たまねぎ	ネギアザミウマ	やや少	やや少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

きゅうり

1. べと病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
 (2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（6筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉率0.8%、発生圃場率13.4%）。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 並
 (2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（6筆）の結果、発病葉率は1.7%（2.7%）、発生圃場率は66.7%（39.4%）であった。

3. 褐斑病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
 (2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（6筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病葉率0.4%、発生圃場率1.7%）。

4. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ア 12月前期の巡回調査（6筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率0.0%、発生圃場率2.8%）。
 - イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

5. コナジラミ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ア 12月前期の巡回調査（6筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率0.6%、発生圃場率19.4%）。
 - イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。
 - イ タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV）を媒介するので、防除を徹底する。
 - ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準P149～150の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を運用しない。

トマト

1. 黄化葉巻病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - 12月前期の巡回調査（9筆）の結果、発病株率は0.6%（0.0%）、発生圃場率は33.3%（12.4%）、一部多発圃場が見られた。

2. 灰色かび病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - 12月前期の巡回調査（9筆）の結果、果実での発生は認めなかった（発生を認めない）。また、葉での発生も認めなかった（過去10か年平均 発病葉率0.0%、発生圃場率0.9%）。

3. コナジラミ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 12月前期の巡回調査（9筆）の結果、寄生葉率は1.9%（2.3%）、発生圃場率は33.3%（44.3%）であった。
 - イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 多発すると防除が困難になるので、黄色粘着板等で本虫の発生状況を把握し、発生初期の防除に努める。
 - イ タバココナジラミは黄化葉巻病ウイルス（TYLCV）や黄化病ウイルス（ToCV）を媒介するので、防除を徹底する。
 - ウ コナジラミ類は葉裏に多く寄生しているので、薬剤のかけむらがないよう丁寧に散布する。
 - エ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準P165～166の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を運用しない。
 - オ マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（26筆）の結果、葉、果実での発生を認めなかった（発生を認めない）。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（26筆）の結果、発生を認めなかった（発病果率0.1%、発生圃場率9.4%）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象予報によると向こう1か月の降水量は平年並の見込みであるが、気象の推移に注意し、曇雨天が続くことが予想される場合は、施設内の湿度管理と薬剤の予防散布を徹底する。

イ 発病果実は伝染源となるので見つけしだい除去し、圃場外に持ち出し処分する。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 12月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は1.6%（1.2%）、発生圃場率は23.1%（17.7%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見、早期防除に努める。

イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので葉裏まで十分に散布する。

ウ 薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵への影響を考慮する。

エ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準P182～183の「作用機構による分類（I R A C）参照」）の薬剤の連用を避ける。

4. ハダニ類

令和7年12月16日付け発生予察防除情報第5号による。

5. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 12月前期の巡回調査（25筆）の結果、寄生花率は0.2%（0.5%）、発生圃場率は8.0%（19.2%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（11筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.2%、発生圃場率6.3%）。

2. コナガ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 12月前期の巡回調査（11筆）の結果、寄生株率は0.4%（4.3%）、発生圃場率は9.1%（38.8%）であった。
イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

レタス

1. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかつた（過去10か年平均発病株率0.0%、発生圃場率1.0%）。

2. 菌核病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかつた（発病株率0.1%、発生圃場率17.9%）。

たまねぎ

1. ネギアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（16筆）の結果、寄生株率は0.8%（2.6%）、発生圃場率は6.3%（23.0%）であった。

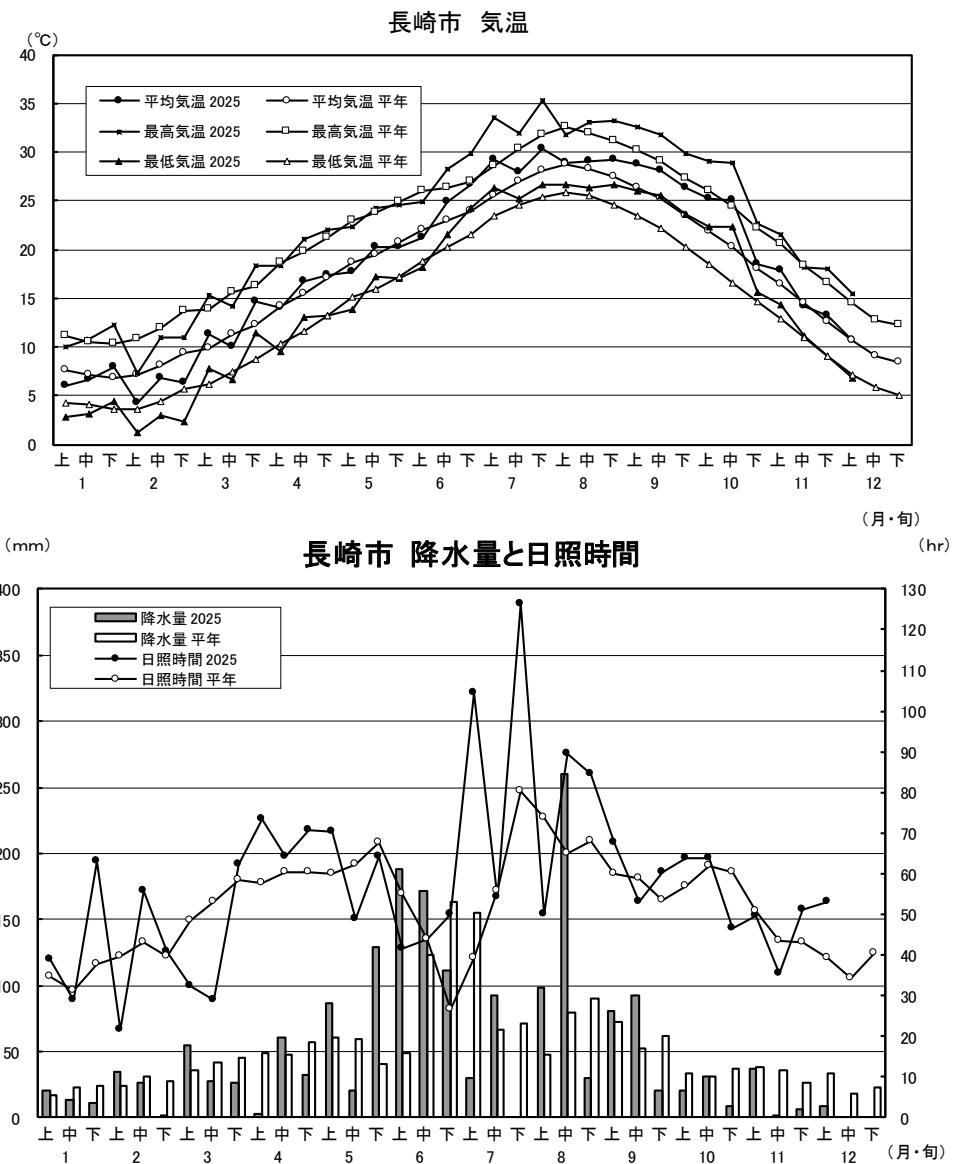
【参考】

(令和7年12月11日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	40	50
降水量	30	40	30
日照時間	20	40	40

※予報対象地域：九州北部地域

令和7年の気象経過(長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) T E L : 0957-26-0027

